

## 27. 駒ヶ根市における音風景の検討の試み

—大学生へのインタビュー調査から—

松本じゅん子、野坂俊弥、北山秋雄、多賀谷 昭（長野県看護大学看護学部）

要旨：駒ヶ根市内で聞こえる音の中で、心地よく感じる音とそれらの音が聞こえる場面を調べ、駒ヶ根市の音風景を提示することとした。駒ヶ根市内に1年以上住んだ経験のある大学生73名を対象に、駒ヶ根市内で聞こえた音で心地よく感じたものやその音が聞こえた場面などをインタビューによって調べた。その結果、駒ヶ根市の音の風景には、こまくさ橋の川の音や、対象者の通う大学構内の風の音、鳥の声、鐘の音、大学周辺地域の水の流れる音の風景などが挙げられることが考えられた。

キーワード：音風景、音環境、駒ヶ根市、長野県、大学生

### A. 目的

長野県南部に位置する駒ヶ根市では、日常生活の中で騒音など音に関する問題は少なく、静かで過ごしやすい音環境にあると考えられる。しかし、実際どのような音環境であり、どのような音風景がみられるのだろうか。

松本、野坂、北山、他（2009）<sup>1</sup>の調査では、駒ヶ根市内の音環境は、静かで、比較的肯定的なものと捉えられていることが示唆された。また、駒ヶ根市内でよく聞こえる音は、自然のものや地域に密着した音であり、その特色が示された。

しかし、挙げられた音の中には、不快に感じると思われる音も含まれており、駒ヶ根市内において心地よく感じる音がどのような場面で聞こえるのか、どのような音風景がみられるのかについては、明らかではない。そこで、本研究では、駒ヶ根市内で聞こえる音の中で、心地よく感じる音とそれらの音が聞こえた場面を調べ、駒ヶ根市の音風景を提示することとする。

### B. 方法

#### ①調査対象者

駒ヶ根市に1年以上の居住経験がある大学生73名（男性20名、女性53名）。平均年齢20.88歳（19—28歳）。

#### ②調査内容

岩宮、申（2002）<sup>2</sup>を参考に、以下の項目をインタビューによって尋ねた。

(1) 駒ヶ根市での居住年数

(2) これまでに住んだ経験のある都道府県名及び市町村名、居住年数

(3) 駒ヶ根市内の音環境に対する意見

(4) これまで駒ヶ根市内で聞こえた音で、心地よく感じられた音の種類とその音が聞こえた場所、季節及び時間帯、その音に対して感じること（複数回答）

#### ③手続き

インタビューは個別に行い、一人あたりの所要時間は、約20分であった。インタビューは2009年2月から4月に行った。本研究の実施にあたっては、長野県看護大

学倫理委員会の承認を得た（2009年1月21日、審査番号23）。

### C. 結果

対象者の駒ヶ根市内での居住年数の中央値は、3年（1—20年）であった。また、県内出身者は45名、県外出身者は28名であった。

#### ①駒ヶ根市内の音環境に対する意見

「静か」という意見が多く（63.89%）、「うるさくはない」という意見が複数みられた。また、明らかに肯定的意見を含む回答は、全体の19.44%であり、明らかに否定的意見を含む回答は、8.33%であった。他の回答は、比較的肯定的な意見を含むものとみなされた。

#### ②駒ヶ根市内で心地よく感じられた音の風景

延べ267の回答が得られた。7名以上の回答が得られた音は、Table 1 に示す通りであった。以下、回答の多かった5種類の音について示した。

##### (1) 川の音

「落ち着く」（21.28%）、「癒される」（17.02%）、「自然を感じる」（14.89%）、「気持が良い」（12.77%）と感じたという回答がみられた。場所は、「大田切川」が最も多く（63.83%）、「大学周辺」が次に多く挙げられていた（27.66%）。「大田切川」に関しては、「こまくさ」（38.30%）、「大学の寮周辺」（10.64%）が具体的に挙げられていた。時期は、「こまくさ橋」については、夏の日中から夜が挙げられ、特に午後の回答が多くみられた（61.11%）。「大学周辺」については、春や夏の朝から午後が多く、春の午後（33.33%）や夏の午後（33.33%）が最も多かった。

##### (2) 風の音（木の葉の音）

「気持が良い」（27.91%）、「落ち着く」（23.26%）、「自然に囲まれている」（16.28%）、「季節を感じる」（11.63%）という意見が多くみられた。場所は、「大学の敷地内」という回答が最も多く（39.53%）、「大学周辺の道」（25.58%）が次いで多かった。「大学の敷地内」では特に、「特定の建物の裏のベンチなどがある空間」

Table1 Sounds preferred in Komagane city

sounds	n	percentage
sounds of stream	47	17.28
sounds of wind	43	15.81
birdsongs	35	12.87
bells in the college	19	6.99
human voices	16	6.96
songs of frog	12	4.41
regular music from outside speakers within the city	10	3.68
silence	9	3.31
music at shopping stores	8	2.94
songs of insect	7	2.57
sounds of train	7	2.57

(18.60%) が具体的に挙げられていた。その場所での時期は、春から秋の日中、夕方が挙げられ、夏の午後が最も多かった(37.50%)。「大学周辺の道」については、春や夏の朝や午後、夕方、また、秋の午後が挙げられており、夏の午後の回答が最も多かった(36.36%)。

### (3) 鳥の声

「自然を感じる」(17.14%)、「朝を感じる」(14.29%)、「気持ちが良い」(11.43%)、「落ち着く」(11.43%)という意見がみられた。場所は、「大学の敷地内」が最も多く(28.57%)、次いで「大学周辺」が挙げられていた(20.00%)。「大学の敷地内」では特に、「大学の寮周辺」が多く挙げられていた(11.43%)。時期は、「大学の敷地内」については、春や夏の朝から夕方が挙げられ、春の朝が最も多かった(50.00%)。「大学周辺」については、春や夏の朝が挙げられており、春の朝が最も多かった(42.86%)。

### (4) 大学の鐘の音

「季節を感じる」(15.79%)、「時間を感じる」(15.79%)、「一日の始まりを感じる」(15.79%)、「好き」(15.79%)といった意見がみられた。場所は、「大学の敷地内」が最も多く(84.21%)、「大学周辺」(21.05%)が次に多く挙げられていた。「大学の敷地内」では特に、「駐車場、講堂付近」(15.79%)や「大学の寮周辺」(15.79%)、「カリヨン(鐘の鳴る場所)周辺」(10.53%)が具体的に挙げられていた。「大学の敷地内」では、季節にあまり関係なく朝という回答が多かった(33.33%)。「大学周辺」においては、特定の傾向はみられなかった。

### (5) 人の声

「楽しい」(11.11%)、「明るい」(11.11%)、「のどか」(11.11%)、「安心する」(11.11%)、「元気だと感じる」(11.11%)といった意見がみられた。場所は、「大学の敷地内」(11.11%)や「大学周辺」(11.11%)が挙げられていたが、大半は自分の住んでいる場所であった。時期については、回答の場所が異なるため、特定の傾向を

示すことはできなかった。

## D. 考察

対象となった大学生にとって、駒ヶ根市内の音環境は比較的肯定的なものであることが示唆された。また、心地よく感じられる音は、川の音や風の音、鳥の声などの自然のものであるだけでなく、人工的な音である鐘の音も含まれていた。それらの音は、日常の生活圏内である大学構内や大学周辺の場所で主に聞こえることが示されたが、川の音に関しては、大学周辺のみならず、駒ヶ根市内の観光名所の一つであるこまくさ橋という吊り橋が挙げられていた。

これらより、駒ヶ根市内に1年以上住んだ経験のある大学生において心地よく感じる音の風景は、こまくさ橋の川の音や、大学構内の風の音、鳥の声、鐘の音、大学周辺地域の水の流れる音が挙げられるといえる。特に川の音は、日本人が最も好む音であり<sup>3)</sup>、水の流れる音が聞こえる場所が豊富な駒ヶ根市の音環境は豊かなものであることも考えられる。

しかし、これらの音風景は、大学生において心地よく感じる風景とはいえるが、一般的なものであるかどうかは明らかではない。今後は対象を拡張し、どの世代の者にとっても大切となる駒ヶ根市の音風景を検討する必要があるだろう。

## E. 引用文献

- 1) 松本じゅん子、野坂俊弥、北山秋雄、他：駒ヶ根市のサウンドスケープに関する検討。平成20年度長野県看護大学研究集会、2009.
- 2) 岩宮眞一郎、申 鍾賢：日本に滞在する韓国人を対象とした日本と韓国の音環境比較調査、サウンドスケープ4：75-82、2002.
- 3) NHK放送世論調査所：日本人の好きなもの、NHK放送出版協会、1984.

本研究は、平成20年度長野県看護大学特別研究費補助金(「音環境が地域景観に及ぼす影響」、研究代表者：松本じゅん子)の補助を受けて行われた。